Automox (サイバーハイジーンソリューション)のご紹介

PARONGO
– internet security company –

◆ Automoxの特徴

- ✓ ソフトウェア/ライブラリのインベントリ作成
- ✓ インベントリとCVE等脆弱性情報との自動突き合わせ・アラートレポート
- ✓ パッチマネジメントの自動化
- ✓ エンドポイントの動作ポリシー制御

～ Automox 3つのポイント ～

インベントリ作成と脆弱性対策

OSおよびソフトウェアやライブラリのバージョン一覧を自動作成。作成されたインベントリとCVE等の脆弱性情報を自動突き合わせし、アラートレポートも生成。

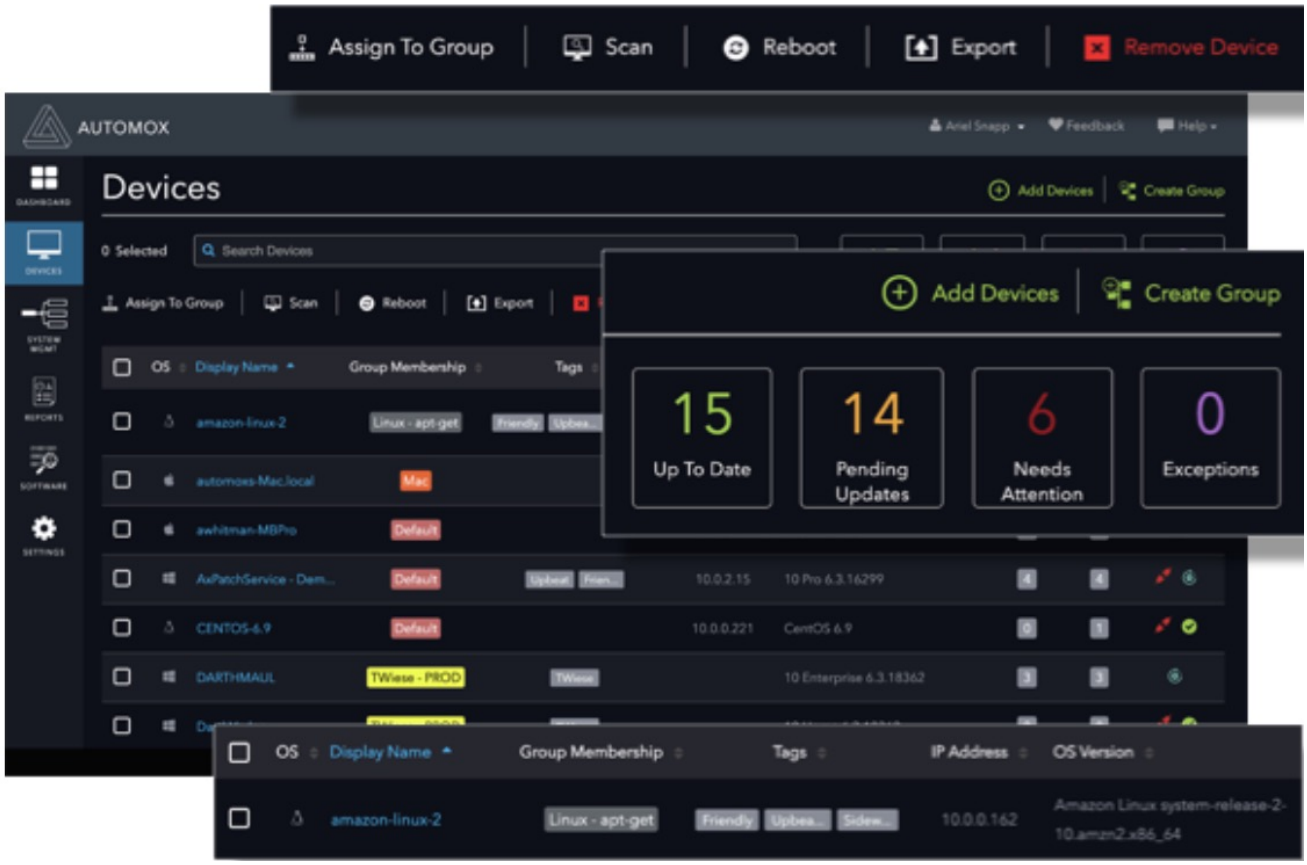
パッチマネジメント

オフィス内外を問わず管理下にあるエンドポイントに対するパッチ管理をポリシーに応じて自動化。
スケジューリングも可能。

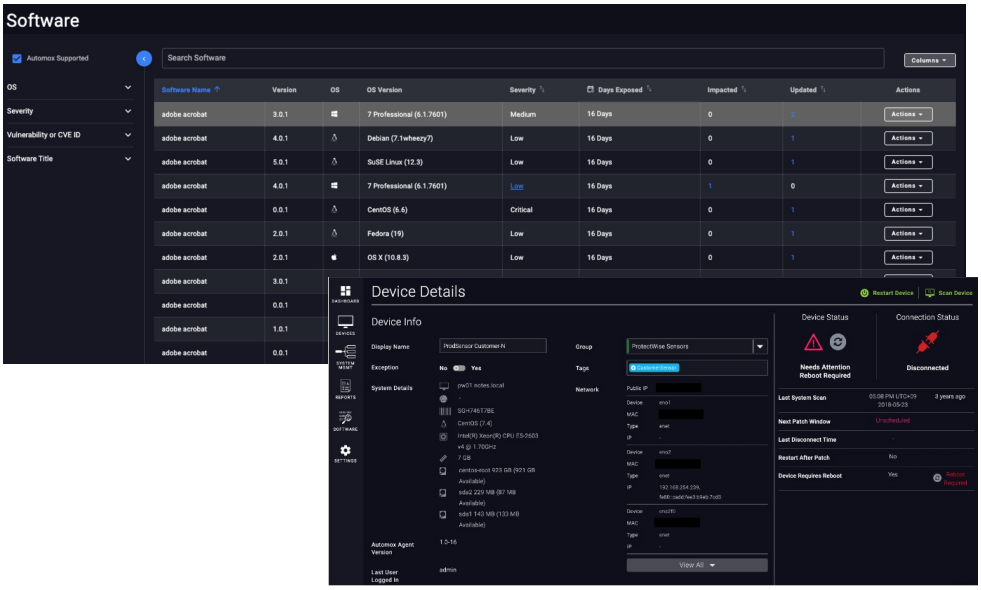
柔軟なポリシー制御

ソフトウェアの動作許可拒否リスト制御、 USBデバイスへのアクセス制御等をユーザやグループロールに基づき実施可能。
また、“Worklet”を用いた制御も可能。

自社がさらされている脆弱性を把握し、必要な対策を状況に合わせて実施するためにも、継続的な可視化が重要です！



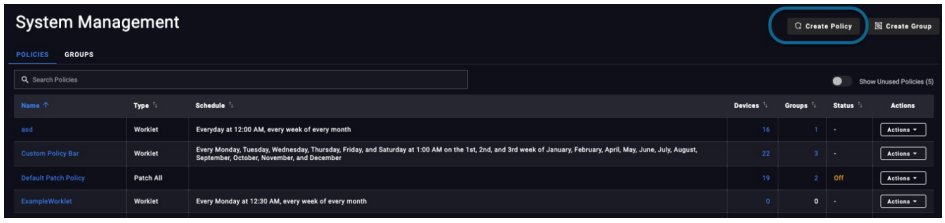
株式会社パロンゴ：https://www.parongo.com
email：info@parongo.com.



インベントリ自動作成

エンドポイント名をクリックすることで詳細を確認することができる。
下記項目で絞り込み検索も可能。

- OS
- Severity
- Vulnerability or CVE ID
- Software Title



システムマネジメント

デバイスごとにパッチ当て等Actionを選択・実施できる

動作ポリシー作成

グループ単位でのポリシー策定の他、Automoxユーザコミュニティで共有されている“Worklet”を活用したポリシー策定可能となり、組織に応じた柔軟な設定・制御が可能。パッチ当てのスケジューリングも可能

◆ 対象OS及びAgent要件(2021/4現在)

	Windows	Mac OS	Linux
Memory	10MB*	10MB*	10MB*
Disk Space	20MB	16MB	5-10MB **
CPU	<1%*	<1%*	<1%*
Support Version	• Windows 7+ • Windows Server 2008 R2+ ※Win7 or Server 2008 R2の場合は.NET Framework 3.5以上	• macOS 10.13+ ※M1 Chipには現時点では未対応	• RHEL 6+ • SUSE Linux Enterprise Server (SLES) 12+ • CentOS 6+ • Fedora 28+ • Debian 8+ • Ubuntu 16.04+ LTS • Amazon Linux 1+

◆ Automoxで実現！

インベントリ作成からCVE等脆弱性突き合わせ、アラートレポートまで自動生成 → 必要なポリシー制御をいつでもどこからでも適切に実施 → 常に効率的かつ、セキュアで安定的な運用を実現

“Security Automation”を可能とするセキュリティオペレーションなら ~ Parongo –Internet Secutiry Company- ~
株式会社パロンゴ：https://www.parongo.com
email：info@parongo.com.